

教科	音楽科	学年	第1学年	担当者	川崎美耶子
----	-----	----	------	-----	-------

**【教科目標】**

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てると共に、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

**【使用教科書・教材等】**

・教科書（「中学生の音楽1」教育芸術社・「中学生の器楽」教育芸術社） ・ワークブック（「ミュージックスタディ」正進社）  
 ・アルトリコーダー ・ファイル

**【学習計画】**

学期	単元名	学習のねらい（身につけたい力）	準備物
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明るい声 「校歌」 「We'll Find The Way」</li> <li>・ 曲のまとめり 「主人は冷たい土の中に」 「エーデルワイス」</li> <li>・ 曲想の変化 「春」「魔王」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新しい仲間と歌う喜びを分かち合うことができる。</li> <li>○ 姿勢、口の形、発声や響かせ方などの特徴を生かしてのびのび歌うことができる。</li> <li>○ フレーズのまとめりや伴奏の違い、形式を理解し、それらの特徴を感じ取ることができる。</li> <li>○ 強弱や歌い方など、曲のまとめりを表現するための工夫をすることができる。</li> <li>○ 楽器や声の音色、リズム、旋律との関わり合い、楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くことができる。</li> </ul>	教科書 ワークブック アルトリコーダー ファイル DVD
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合唱の響き 「合唱コンクール曲」</li> <li>・ 色々な音楽 「赤とんぼ」 「浜辺の歌」 「映画音楽」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パートの役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱することができる。</li> <li>○ 仲間と共にひとつのものを創りあげることができる。</li> <li>○ 歌詞の内容や曲想を感じ取って、表現を工夫することができる。</li> <li>○ 映画の場面や登場人物の心情との関わりを感じ取って聴くことができる。</li> </ul>	楽譜  教科書 ワークブック アルトリコーダー ファイル CD
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の音楽 「六段の調」 「さくらさくら」</li> <li>・ 日本の民謡</li> <li>・ アジアの諸民族の音楽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本の楽器の響きを感じ取って、表現を工夫することができる。</li> <li>○ 楽器の音色や形状の特徴、奏法を理解することができる。</li> <li>○ 郷土の音楽の良さを味わうことができる。</li> <li>○ アジア各地の音楽に触れ、音楽や音色の特徴を感じ取ることができる。</li> </ul>	教科書 DVD フラッシュカード ワークブック アルトリコーダー ファイル

**【評価の観点と評価の方法】（通知票のつけ方）**

評価の観点	音楽への関心・意欲・態度 20%	音楽表現の創意工夫 30%	音楽表現の技能 30%	鑑賞の能力 20%
評価の観点の趣旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽が形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
評価の方法	毎時間の授業の様子（音楽に取り組む姿勢） 定期テストと実技テスト	学習中の様子 実技テスト 定期テスト	学習中の様子 実技テスト 定期テスト	鑑賞中の様子 自己評価や感想文 発表内容・定期テスト

**【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）**

1、授業に必要な持ち物をしっかりそろえましょう。  
 2、歌を歌うときは、姿勢や発声法を意識し、のびのびとよい表情で歌えるよう頑張りましょう。  
 3、アルトリコーダー奏では、楽譜を読んだり運指の確認を粘り強く取り組み、音色を意識して演奏しましょう。  
 4、鑑賞では説明をしっかりと聞き、楽器の音色や作曲者の思いを考えながら聴きましょう。  
 5、合唱活動では、音程を早く覚えるためにパート練習に集中し、自分から声を出しクラスの仲間と協力してひとつのハーモニーを創りましょう

**【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）**

1、授業で学習した歌唱曲や器楽曲を自主的に練習しましょう。  
 2、自分のパートを覚えるために意欲的に練習しましょう。そして音程を早く覚え、のびのび歌えるようにしましょう。  
 3、実技テストに向けて、しっかり練習しましょう。  
 4、普段の授業では聴くことができない音楽がたくさんあるので、CDやテレビやインターネットを利用して、色々な音楽を聴きましょう。また音楽会に行く機会を大切に、音楽の美しさや授業で触れることができない感動を味わいましょう。